

五味子 SCHIZANDRAE FRUCTUS

「五味子」は皮、肉に甘、酸有り、核中に辛、苦有り、そして共に鹹味有り、以て五味となす。故に名付く。

(基原) 1)2)3)5)9)14)15)

チョウセンゴミシ *Schisandra chinensis* (科名: マツブサ科 *Schisandraceae*) の Baillonの成熟果実を乾燥した「北五味子」である。

東医研薬局では中国(遼寧)産を使用。

(性状) 1)3)

不規則な球形～偏球形を呈し、径約6mmである。外面は暗赤色～黒褐色でしわがあり、又時に白い粉を付ける。種子は腎臓形を呈し、外面は黄褐色～暗赤褐色でつやがあり、背面に明らかな縫線を認める。外種皮はたやすくはがれるが、内種皮は胚乳に密着する。本品は弱い臭い及び酸味があり、後に渋くて苦い。

(産地) 1)2)3)8)

五味子は二つに大別される。

- ①「北五味子」: *S. chinensis* B.である。中国、日本、朝鮮半島において産出。
中国) 吉林、遼寧、黒龍江の東北三省に主産し、その他河北省などにも産する
日本) 長野、奈良県に僅かに産する
※果実の粒が大きく、肉厚、柔らかく新物は潤いがあり良品である。
- ②「南五味子」: 西五味子ともいわれ、原植物は *S. shpenanthera* R. et Wils.
(華中五味子)、他3種である。中国に産する。
中国) 西北地区、華中、西南等
※果実の粒が小さく、新物でも皮が薄く、乾いてしまっている。
北五味子とは品質的に差がある。

～市場品～

市場品は100%中国産である。国内、中国どちらにおいても五味子といえ

北五味子を指している。

(品質) 3)7)8)16)

赤黒色～紫黒色で潤いと光沢があり、やや甘味があつて酸味が強く、種子が苦くて辛くかぐわしいものが良品とされる。しばしば表面に白粉が付いているが、これは粉霜と称するもので、かびではない。又古いものは黒褐色を呈し光沢がない。この様なものは劣品である。

《選品》

「和漢薬の選品とその薬効：木村雄四郎」

表面に皺が多く紫黒色で白粉を生じ酸味の多いもの。果柄が混じらない物が良品である。

「大和本草：貝原益軒」

朝鮮産を用うべし。医書に遼五味子と云う、是也。又、北五味子と云うは実・大にして色黒く潤いがあり、五味ありて甚だ酸っぱく核は赤い。日本の五味子は味・苦きのみにて五味なく性悪し、用うべからず。朝鮮より来るもの実は苦辛、皮(果肉)は甘酸、皮・実全て鹹し。

一物にして五味全て備わる事奇也。是、真の五味子也。

「中薬大辞典」

紫紅色、粒大、肉厚、油性及び光沢あるものを佳とす。

「方伎雑誌：尾台榕堂」

天保の初めまでは黒色にて潤いのある物、朝鮮より来たり。この品甚だよかりし。

「和漢薬の良否鑑別法及調整方：一色太郎」

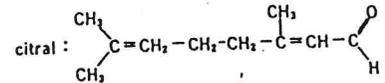
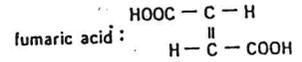
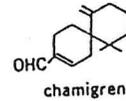
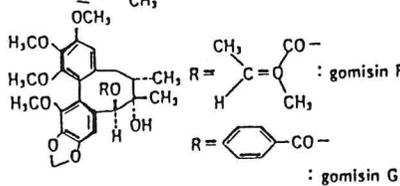
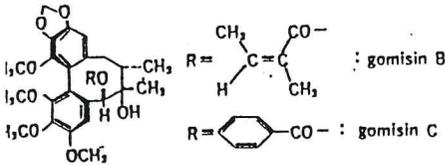
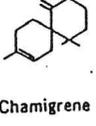
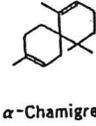
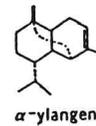
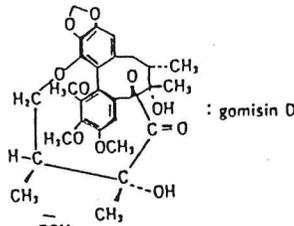
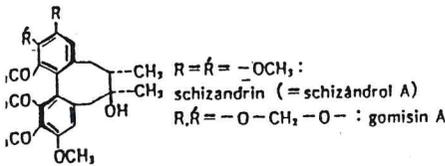
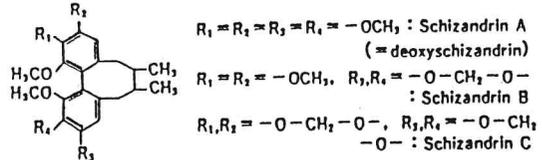
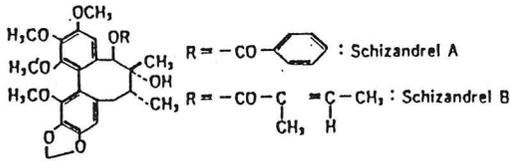
表面にシワの紋があつて紫黒色を呈する大粒の甘味のあるものが良品であります。朝鮮五味子と云ふのは表面紅色で湿ると白い粉が一ぱいに吹いて白色のように見えます故、市場では白五味子とっております。然し之を蒸すと又元の如く紅くなります。

(成分) 1)2)5)7)8)9)13)14)15)

精油 : citral、β-chamigrene、β-chamibrenal、sesquicarene、
α-chamigrene、α-ylangene

リグナン類 : schizandrinA~D、deoxyschizandrin、gomisinA~D、F~H、J、
N、progomisin

有機酸 : citric acid、malic acid、tartaric acid、prptocatechuic acid、
ascorbic acid



(現代薬理) 1)2)5)7)9)14)15)

1) “gomisin A” と “schizandrin” の構造の差異は、2個のmethoxy基とmethylenedioxy基の相違である。“gomisin A” には、中枢抑制又はトランキライザー様作用、鎮咳作用、ストレス胃潰瘍予防作用、抗炎症作用、抗アレルギー作用、利尿作用が、“schizandrin” には、中枢抑制作用又はトランキライザー様作用、鎮痛作用、胃液分泌抑制、利胆作用が認められている。前者による作用の多くは持続性であるのに対し、後者による作用は一過性である。

2) 臨床的には、慢性ビールス性肝炎や薬物性肝炎にある程度治療効果があり、特に抗SGPT作用が顕著である。又脳神経疾患、神経衰弱、メニエール症候群などに対して、五味子を配合した処方があることが有効であった。

3) 中国産、あるいは北朝鮮産の五味子はshizandrinが平均0.53%、gomisin Aが0.24%、gomisin Nが0.33%という値を示したが、日本産のものは、shizandrinが0.31%、gomisin Aとgomisin Nが各々0.08%と非常に低い値を示し、作用の弱いdeoxyshizandrinが多く含まれている事が報告されている。

《一般薬理作用》

①鎮痛、鎮痙作用：schizandrin、gomisin A

中枢抑制的に働き、トランキライザー様の鎮静作用、筋弛緩作用などが認められた。

②鎮咳作用：gomisin A

モルモット気管の機械的刺激による咳に対し、鎮咳作用を示した。

③抗胃潰瘍作用：schizandrin、gomisin A

ラットの自発胃運動の抑制、ピロカルピンにより亢進した胃運動を抑制する。又ラット拘束水浸ストレス潰瘍を抑制した。

④肝障害改善作用：gomisin A、schizandrinなどのリグナン成分

四塩化炭素、D-ガラクトサミンなどによる実験的肝障害に対し、肝細胞障害抑制、肝繊維化抑制、肝再生修復促進、肝機能亢進、利胆などの作用を示す。又実験的急性劇症肝炎モデルのマウスに対しgomisin Aは、生存率を上昇させ、肝細胞壊死を抑制した。その他、gomisin Aは P.acnes 加熱死菌及びLPSによる急性肝不全などによる免疫学的実験的肝障害に対し抑制作用を示した。

⑤平滑筋収縮抑制作用：gomisin B、D、J

イヌ摘出腸間膜動脈標本に対し、PGF₂α、CcCl₂ ならびにNEによる血管平滑筋収縮を強く抑制した。又gomisin JのNa塩はアセチリコリンで惹起したモルモット摘出回腸標本及びヒスタミンで惹起したモルモット気管標本の収縮に対しても、弛緩作用を示した。さらにモルモット摘出心臓標本に対しては冠動脈拡張作用を示した。

⑥抗アレルギー作用：gomisin A

PCA反応、アルサス反応などを有意に抑制した。又アナフィラキシー性ケミカルメ

ディエーターの遊離抑制に対しても拮抗した。

⑦免疫複合体低下作用

in vivo、in vitro EIC assay において、免疫複合体の肝臓におけるクリアランスを促進した。

※この機序は肝実質細胞及び肝マクロファージへの免疫複合体の結合を高める事による。

⑧抗痴呆作用

ラットの大脳皮質膜において、セロトニン、GABAの受容体の結合を高めた。

⑨抗菌作用：五味子エキス

ブドウ球菌、パラチフス菌A.B、赤痢菌などに対して抗菌作用が認められた。

⑩ 抗酸化作用：gomisin N

リノール酸空気酸化に対し、抗酸化作用が認められた。

※その他、アラキドン酸代謝抑制作用、抗凝固作用等が報告されている。

(古典的薬効、薬能) 1)2)5)8)9)10)11)12)13)15)

薬味：酸 薬性：温 帰経：肺、腎経

薬能：斂肺滋腎、生津斂汗、滋精止瀉

肺を補い、腎精を固めて滑を止める作用があり、固澁薬としての作用がある。

薬徴：主治咳而冒物也。

神農本草経：(上品に五味と記載) 気を益し、咳逆上気、労傷、羸瘦を主り、不足を補し、陰を強くし男子の精を益す。

(臨床応用) 1)8)9)17)

鎮咳去痰薬とみなされる処方及びその他の処方に少数例配合されている。

※漢方処方例：小青竜湯、清暑益気湯、人参栄養湯、清肺湯、苓甘姜味辛夏仁湯、麦門冬飲子など

①鎮咳作用：虚寒の呼吸困難、咳嗽に用いる。肺虚の呼吸困難、咳嗽で寒痰、湿痰の症状がある時には乾姜を配合する。老人の慢性気管支炎には、麻黄、釣藤鈎を配合する。腎虚の喘息で症状がかなり重い場合には、更に遠志等の安神精神薬を配合する。※乾姜+五味子→鎮咳、平喘

五味子+乾姜

②収斂作用：発汗過多で体がだるいなどの症状を伴う時には麦門冬、人參を配合する。例) 生脈散

③滋養作用：脳卒中後遺症などの四肢の麻痺に四物湯、蒼朮と配合する。

例) 加味四物湯

④メニエール病に用いる。酸棗仁などを配合すると、一時的耳鳴及び眩暈が軽減あるいは消失する。

⑤アレルギー性や掻痒性の皮膚疾患に用いる。例：五味子10gを80%アルコール100mlにつけて五味子チンキとして1日3回5-6mlを水で沖服する。

⑥慢性肝炎に用いる。例：単味も蜜丸あるいは茵陳蒿、大棗を配合して蜜丸を投与するとトランスアミナーゼ値を低下させた。有効率は約80%であった。

⑦慢性の下痢、発汗過多に用いる。

(使用上の注意)⁹⁾

①熱証の咳嗽、呼吸困難には禁忌である。

②滋補には熟製したものを、虚火には生を用いる。

(補足)⁸⁾⁹⁾¹³⁾¹⁵⁾¹⁷⁾

「南五味子」について

①モクレン科：Magnoliaceae 南五味子 *Kadsura peltigera* Rehd. et Wils.の成熟した果実を乾燥したもの。咳嗽に用いるが、滋補の効能はやや劣る。

②薬味：苦、辛 薬性：温

③李時珍：五味子を南北産の2種に区別しており南方産は色が紅く、北方産は色が黒い。滋養薬には北方産を用いるのが良いとしている。

小野蘭山：南方産のものを南五味子と称しサネカズラをあてている。

※これは、日本のみで中国においては産出しない。

④区別点；北五味子すなわち五味子の種子は腎臓形で表面は滑らかであるが、これに対して南五味子の種子表面には疣状小突起がある。

(参考文献)

- 1) 日本薬局方 第13改正
- 2) 和漢薬百科図鑑 難波恒雄著
- 3) ウチダ和漢薬 勉強会資料 佐橋先生
- 5) 生薬ハンドブック ツムラ
- 6) 現代東洋医学 (Vol16 No4,1985)
- 7) 漢方製剤の知識 薬事日報社 ツムラ
- 8) 新古方薬囊 荒木性次 方術信和会
- 9) 漢薬の臨床応用 神戸中医学研究会
- 10) 薬徴・類聚方広義 西山英雄 創元社
- 12) 神農本草経 森立志 昭文堂
- 13) 意釈神農本草経 小曾戸丈夫 築地書館
- 14) 和漢薬物学 大塚恭男 南山堂
- 15) THE KAMPO
- 16) 和漢薬の良否鑑別法及び調製方 一色直太郎 谷口書店
- 17) 漢方のくすりの事典 医歯薬出版株式会社



薬用部分：果実

139. チョウセンゴミシ [マツブサ属](まつぶさ科)

Schisandra chinensis (Turcz.) Baill. (= *Maximowiczia chinensis* (Turcz.) Rupr.) (中)五昧子

【分布】本州中部以北、北海道およびサハリン、朝鮮半島、中国、アムール、ウスリーに分布し、山地に生えるつる性落葉低木。【形態】茎はあまり伸長せず、まばらに分枝し、枝は無毛、葉は互生し、膜質で倒卵形か倒卵形、まれに楕円形で長さ4~7cm、鋭尖頭で腺状粗きよ歯縁。花期は5~6月。雌雄異花、新枝の基部につく鱗片に黄白色か帯紅色花を1個えき生する。液果は球形で赤熟する。【薬用部分】果実(五昧子くゴミシ)⑤。秋に成熟果実を房ごと採集して日干しにし、乾燥したら手でもんで果実だけにする。【成分】果実に精油のシザンドレン、 α - β -カミクレン、カミグレナル、シトラール、リグナン類のゴミシンA、B、C、D、F、G、シザンドリン、フレゴミシン、 β -シトステロールのほか、有機酸類のクエン酸、酒石酸、リンゴ酸、フマル酸などを含む。【薬効と薬理】五昧子エキスをウサギの結膜裏に点眼すると瞳孔散大、眼裂増大、眼球突出を起こす。エタノールエキスには抗菌作用が知られている。また肝臓の解毒機能を強化し、肝グリコゲン、血清タンパク質の合成の促進作用、収れん性鎮咳作用などが認められ、鎮咳、収れん、止瀉、強壯薬として各種の処方に配剤される。【使用法】鎮咳に五昧子1日量5~10gを煎服する。五昧子300gを焼酎1.8lに2ヵ月漬け、布でこした五昧子酒を1日30mlを限度に就寝前に飲用すると滋養強壯、疲労回復によい。【処方例】小青竜湯(傷寒論；麻黄、桂枝、芍薬、細辛、五昧子、甘草、半夏)など。

(収新645)

厚朴 MAGNOLIAE CORTEX

(基原)

ホオノキ *Magnolia obovata* Thunberg (モクレン科 *Magnoliaceae*) の樹皮。

局方では日本産の厚朴(和厚朴)のみを規定している¹⁾。

東医研薬局では日本中部地方(長野・岐阜・富山)産のものを使用

厚朴という名称の由来は、質朴で皮が厚いところからきている¹³⁾。

(性状)

本品は板状又は半管状の皮片で、厚さ2~5mmである。外面は灰白色~灰褐色を呈し、しばしば地衣を付け、内面は淡褐色~褐色、折面は極めて繊維性で淡赤褐色を呈する。本品は弱いにおいがあり、味は苦い。中国産の厚朴は外面は暗灰褐色、内面は紫褐色である¹⁾。

原植物は日本の特産で、北海道から九州にいたる各地の山地又は平地の林中に生育する。落葉性高木で、高さ20m、径1mに達するものもある。幹は直立し、枝は太く疎に分枝。葉は大形で枝端に集まって開出し葉身は倒卵形。花は枝端に単生し白色、洋盃形で径約15cm、花弁は6~9枚で倒卵形。花糸は鮮紅色、集果はだ円形で長さ約15cm、多数の袋果が集合し、各袋果は開裂し赤色の種子2個ずつを糸状の種柄で垂直する¹⁾。

花期は5~6月、厚朴は5~8月頃に剥皮しやすいために採取される。

ホオノキ属植物の多くは樹皮に強い芳香を有す⁶⁾。

ホオノキの材は細工しやすく、ひび割れにくいので工芸品の材料とされ、かつては下駄の朴齒とされていた⁶⁾。

(産地)²⁾⁷⁾¹⁴⁾

日本産：(和厚朴)ホオノキ *Magnolia obovata* Thunbergは長野、岐阜、富山、香川、鹿児島、北海道などで野生品を採取する。年間生産量は約140t

中国産：(唐厚朴)2種ある。

①カラホオ *Magnolia officinalis* Rehd.et Wils.の樹皮を乾燥したもの

(商品名：川朴－四川省・湖北厚朴－湖北省)

②ヤハズホオノキ、凹葉厚朴

Magnolia officinalis Rehd.et Wils.var.*biloba* Rehd.et Wils.の樹皮を乾燥したもの(商品名：温朴・温州厚朴－浙江省 福建省)

韓国産：ホオノキの樹皮以外に、タブノキ *Machilus thunbergii* Sieb.et Zucc.の樹皮を厚朴と称することがあり、代用品としている。(薄朴)

(品質)

新鮮で厚味があり、充実して堅くはなく、潤いがあり、香気が強く、味が苦くて辛いものが良品とされる。苦味の強く白っぽいものは日本産で、やや刺激的な辛味の強いものは中国産である⁴⁾。

薬徴の品考：漢産は良と為す。本邦に産する所は真に厚朴に非ず。用いるに堪えず。或いは云う。本邦の産に二種有り。其の一は則ち冬月には落ちず。是漢土に産する所と同じ。比叡山に之有り¹⁰⁾。

新古方薬囊：唐厚朴を上とす。内面が暗赤褐色～紫色で紫油厚朴といわれる品は最も良とす⁸⁾。

一本堂薬選：皮極めて厚く、紫色にして気新たに味微かに辛きものを取りて佳しとなす⁶⁾。

方伎雑誌：厚皮にてその色栗の皮より濃く、刻みて薬刀の跡少しく光りて白点を見るもの効あり。

中国産厚朴は共に生薬切断面に白色結晶を析出する。この結晶はhonokiolを約5%含む不純の magnololの混晶で金星厚朴ともいわれる⁶⁾。

★日本薬局方13改正からは中国産の唐厚朴も局方品として収載される事になっている。マグノロールの含有量を0.8%以上に規定する。

(成分)

約1%の精油を含む。 β -eudesmol(8)を主成分とする¹⁴⁾。

精油成分：モノテルペン系化合物として、 $\alpha\beta$ -pinene(3), camphene(2),

limonene(4), bornylacetate(5)⁷⁾

セスキテルペン系化合物として、 $\alpha\beta\gamma$ -eudesmol(8) (10~15年生樹皮では精油の87%を占め室温で固化する), caryophyllene(6), caryophyllene epoxide(7)⁷⁾

アルカロイド: magnocurarine(9) (クラーレ様筋弛緩作用を有する4級アルカロイド), magnoflorine, liriodenine(10), michelarine, anonaine, salicifoline⁷⁾ *77-20 113*

ジフェニル化合物: magnolol(11), honokiol(12) (中枢抑制作用・抗痙攣作用・殺菌作用), magnaldehyde, magnolignan (抗アレルギー作用) cryptomeridiol(13)

magnolol, honokiolは樹皮の年齢とともに増加し、唐厚朴では20年~30年で最高に達し、その後減少する⁶⁾。 *20~30年 80% 1-10%*

(現代薬理)

漢方における厚朴の適応は胸腹部の膨満感等の消化器疾患と、不安、神経症等の精神神経性疾患に大別できる。気血水説の気剤に相当するものとされる¹⁴⁾。

1、中枢抑制作用、鎮静作用 (不安、緊張における minor tranquilizer 様作用)

ラットの脳波の記録ではmagnololはラットにおいて30mg/kg, i.p.の用量で、自発脳波に対して比較的緩和な徐波化作用を示し、特に皮質脳波には紡錘波の出現が見られた。脳幹網様体あるいは視床下部の刺激による覚醒反応の刺激閾値は上昇し、脳幹網様体賦活系及び視床下部神経経路の抑制作用が示された⁶⁾。

2、末梢性筋弛緩作用

Parkinson病の患者に厚朴単味の煎剤を服用させたところ、その有効性が認められた¹⁴⁾。1921年に佐々木により厚朴エキスのクラーレ様筋弛緩作用が見いだされ、後構造決定されmagnocurarineと命名された。厚朴エキス及びmagnocurarineと関連の4級アンモニウム化合物の神経-筋接合部遮断作用については詳細な研究がある⁶⁾。

3、中枢性筋弛緩作用

厚朴のエーテルエキスの magnolol, honokiol は金網懸垂法による握力の筋力低下を起こす。この握力低下はメフェネシンに類似する中枢性筋弛緩作用に基づく。その作用はメトカルバモールよりも持続が長い⁶⁾。

4、抗痙攣作用

厚朴エキスはストリキニーネ、ピクロトキシン、ペンテラゾールにより誘発されるマウスの痙攣発作に対して強い抗痙攣作用を発揮する。特に Parkinson 病のモデルとされるオキシトレモリンによる振戦には強い抑制効果を示す。

5、脊髄反射抑制作用

ヒヨコの交叉性伸展反射に対し、magnolol, honokiol は抑制作用を示す。この抑制はストリキニーネで完全に回復する。このことは厚朴成分が脊髄レベルでメフェネシン類似の多シナプス反射を抑制することを示す。magnolol はウシガエルの摘出脊髄で興奮性神経伝達物質のグルタメートに特異的に拮抗する。

6、消化器機能に対する作用

セリエのストレス学説以来ストレスと消化性潰瘍は密接な関係があるとされてきた。このことを示す実験として水浸拘束ストレス法がある。拘束ケージに封入したラットを23℃の水槽に5時間浸漬するストレスによって100%の発生率で顕著な胃出血と腺胃の強度の糜爛性潰瘍が発生する。このストレス性胃潰瘍に対し magnolol は50mg/kg, i.p. 以上の用量で用量依存性の抑制効果を示した。これは中枢抑制作用に基づくストレス緩解作用による。その効果はシメチジン、ジメチル PGE₂ と同程度である。また厚朴はストレス負荷時に増加する胃酸分泌の抑制作用（攻撃因子）や胃出血を抑制し胃粘膜保護作用（防御因子）がある⁶⁾。

アカガエルトノサマガエルに硫酸銅を経口投与すると嘔吐作用が見られるが magnolol, honokiol に活性が認められ、鎮吐作用がある。

7、抗菌作用

magnolol honokiol はジフェニル骨格を有し殺菌作用、殺線虫作用がある。

また大腸菌、赤痢菌、腸チフス菌、ヒト型結核菌、炭疽菌、黄色ブドウ球菌に対する抗菌作用が証明されている⁶⁾。また、虫歯成因菌である口内細菌 *Streptococcus mutans* に対し、強い殺菌作用がある⁷⁾。(腸内殺菌作用・下痢)

H.pylori は???

8、Ca拮抗作用とEDRF, NO関連の作用

厚朴が血栓形成や頭痛に用いられるところから血小板凝集に対する厚朴の効果を調べた結果、抽出エキス及びmagnololに凝集抑制効果を認めた。これに関連し、血管内皮細胞の機能に対する効果を検討し、次のような成果を得ている。

①magnololは血管内皮依存性の速効性血管弛緩作用と、内皮非依存性の遅効性弛緩作用を示す。②血管内皮依存性の弛緩作用はNOの作用を抑制するメチレンブルー及びヘモグロビンで抑制される。③Ca²⁺イオンの流入に基づく血管平滑筋収縮反応に拮抗作用を示す。④K⁺脱分極時のCa²⁺イオンの細胞内流入を阻害した。⑤血管の細胞内サイクリックGMPの濃度を内皮依存性に上昇させたがプロスタサイクリン量は変化させなかった。以上よりmagnololには血管内皮細胞に作用して、ここからNOを発生させて血管平滑筋細胞内グアニレートシクラーゼを活性化し、細胞内cGMP量を高めて血管を弛緩させる作用と、Ca²⁺イオンの細胞内流入を抑制して血管を弛緩させる作用がある⁸⁾。

(EDRF: Endothelium Derived Relaxing Factor)

9、抗アレルギー作用

magnolignanはマウスの接触皮膚炎を減少させる効果がある。

水製エキスは、ウサギ腎の抽出標本で、PGE₂の生合成を阻害する作用が認められた。またラットの受身皮膚アナフィラキシー反応を抑制する作用が認められる。magnolol, honokiolには起炎酵素ヒアルロニダーゼに対する阻害活性が認められる⁵⁾。

10、LD₅₀

マウス皮下注射でLD₅₀は1.7ml/10g (30gの生薬を100mlの水で100°C 4時間抽出した水溶液) 死因は呼吸麻痺で速効性の筋弛緩作用による。諸臓器に特異な変

化は生じない¹⁴⁾。

厚朴：喘動抑制
枳實：喘動促進

(古典的薬効・薬能)

薬味：苦・辛 薬性：温 帰経：脾・胃・肺・大腸経⁹⁾

厚朴の主要な効能は①胸、腹満を除く②健胃作用③腹痛を去る④気を下す⑤喘咳を治す⑥水毒を去る⑦駆瘀血作用である⁶⁾。

要約すると胸脇部の膨満を主治し、痰飲を消し気を下し、中焦をゆるめ、胃内停水を去る。

神農本草経：(中品に記載)中風・傷寒・頭痛・寒熱・驚気・血痺・死肌を治し、三虫をさる¹²⁾¹³⁾。

薬徴：胸腹脹満を主治するなり。傍ら腹痛を治す¹⁰⁾。

新古方薬囊：腹を温め腹満を除く。また胸満、咳、喘、上気等を治し、或いは咽喉の塞へを治す。併しその根元は腹満にあり⁸⁾。

古方薬議：痰を消し、気を下し、結水を去り、宿血を破り、水穀を消化し、大いに胃気を温むるを主り、腹痛脹満、喘咳を療す¹⁵⁾。

中医学：燥湿除満・行気降逆⁹⁾

古方における厚朴の漢方処方

- ①胸、腹満を治す－厚朴三物湯、小承気湯、梔子厚朴湯、厚朴七物湯、厚朴生姜甘草半夏人参湯、大承気湯
- ②喘咳を治す－桂枝加厚朴杏子湯、厚朴麻黄湯
- ③胸腹痛を治す－枳実薤白桂枝湯
- ④気を下す－半夏厚朴湯

後世方における厚朴の漢方処方

- ①腹満水腫を治す－潤腸湯、麻子仁丸、九味檳榔湯、分消湯、補中治湿湯
加味胃苓湯
- ②脾胃不和を治す－平胃散、香砂養胃湯、人参養胃湯
- ③下痢を治す－胃苓湯、藿香正気散、温脾湯

- ④喘咳を治す－治喘一方、喘四君子湯、蘇子降氣湯
- ⑤胸腹痛を治す－当帰湯、枳縮二陳湯、五積散
- ⑥氣を下す－寛中湯、順氣湯
- ⑦諸瘡を治す－内托散、托裏消毒飲、十六味流氣飲
- ⑧瘀血を治す－通導散、当帰養血湯

(その他)

- ★厚朴花は厚朴（ホオノキ）の花序で、胸脇部の苦満に用い、健胃作用がある⁹⁾。
- ★果実は朴の実と称し、民間的に疝氣、淋病、風邪、嘔吐に用いる²⁾。
- ★厚朴の葉は昔から食物を包むのに用いられて、北陸地方ではホウバメシという蒸し飯料理がある。飛騨地方ではホウバミソが有名である⁶⁾。
- ★唐厚朴は良質なものが多い反面、張元素の潔古珍珠囊には「腹脹をのそくが虚弱者には斟酌して用いるが宜し、誤って服すれば人の元気を脱する」という記載のように¹⁰⁾、久服、過服により元気をなくす。また、胃氣は胎養の根蒂ということから唐厚朴で強く胃氣を瀉すのは妊婦には好ましくない⁶⁾。
- ★厚朴は満を散じ脹を除くのに用い、枳實は結を消し滯りを導くに用いる。

参考文献

- 1) 日本薬局方 第12改正
- 2) 和漢薬百科図鑑 難波恒雄著
- 3) ウチダ和漢薬勉強会資料 佐橋先生
- 4) ウチダ和漢薬生薬資料
- 5) 生薬ハンドブック ツムラ
- 6) 現代東洋医学, vol.7, No.1 (1986.1.1)
- 7) 漢方製剤の知識 (VII) pp176, 薬事日報社 ツムラ
- 8) 新古方薬囊 荒木性次 方術信和会
- 9) 漢薬の臨床応用, pp205, 神戸中医学研究会
- 10) 薬徴・類聚方広義 西山英雄 創元社
- 11) 本草備要

- 1 2) 神農本草經 森立之 昭文堂
 1 3) 意積神農本草經 小曾戸丈夫 築地書館
 1 4) 和漢薬物学 大塚恭男 南山堂, pp248
 1 5) 古方薬議 浅田宗伯 春陽堂

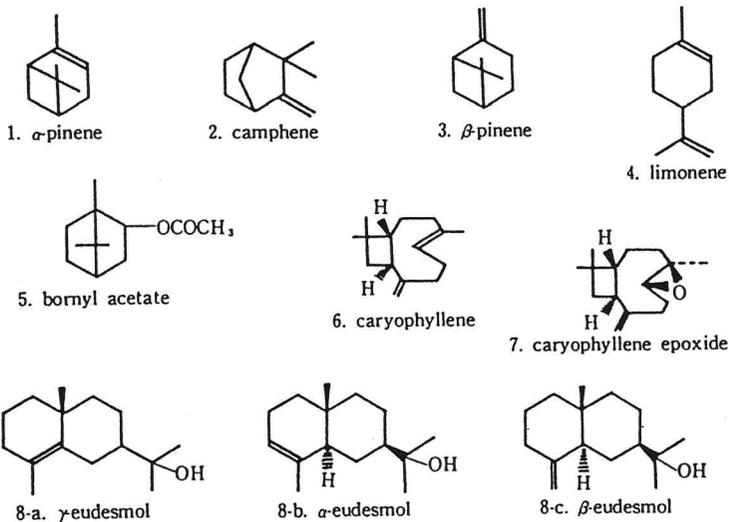


図1 ホオノキ樹皮の精油成分

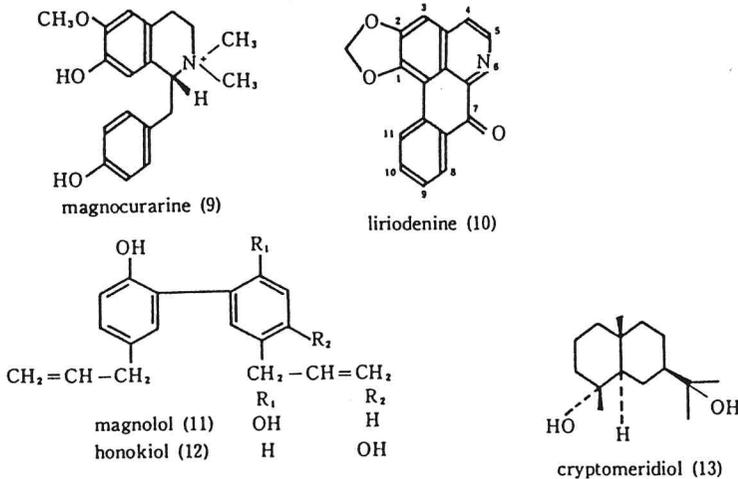


図2 ホオノキ樹皮のメタノールエキス成分

薬用部分：樹皮



132. ホオノキ (ホオガシワ, ホオガシワノキ, ウマノベロ) (モクレン属) (もくれん科)

Magnolia obovata Thunb. (= *M. hypoleuca* Sieb. et Zucc.) (朴, 厚朴)

【分布】北海道から九州および中国に分布し、山地、丘陵地に生え、庭園樹、公園樹、建築材などに植栽される落葉高木。【形態】樹高15~20m。幹は直立し、まばらに分枝する。樹皮は灰白色で裂け目がなく、円形の皮目が散生する。葉は枝先に集まって互生し、倒卵形か倒卵状長楕円形で長さ20~40cm、円頭凸端で全縁。花期は5~6月。枝先に大形の黄白色花をつける。【薬用部分】樹皮(和厚朴くワコウボク)⑤。夏の土用頃に幹、枝の皮を剥ぎとり日干しにする。【成分】樹皮にアルカロイドのマグソクラリン、マグノフロリン、リリオデニン、アノナイン、リグナン類のマグノロール、ホオノキオール、テンペシンの α 、 β 、 γ -オイデスモールなどを含む。【薬効と薬理】マグノフロリン、サリシンフォルン、マグソクラリンにクラーレ様の作用が認められたが、 d -ツボクラリンに比べて極めて弱い。また神経節遮断作用、抗ポリカルピン作用、アドレナリン増強作用も認められる。エーテルエキスには中枢抑制作用、筋弛緩作用、各種瘻れん薬に対する拮抗作用がある。和厚朴は収れん、健胃、利尿、去痰薬として腹部膨満、腹痛、下痢、吐き気などに用いられる。【用法】腹痛、吐き気、下痢などに和厚朴1日量10~20gに400mlの水を加え、半量になるまで煎じつめたものを3回に分けて服用する。10~15gを700mlの水で煎じたものは暑気あたり、便秘によい。